

46. 中 通 島

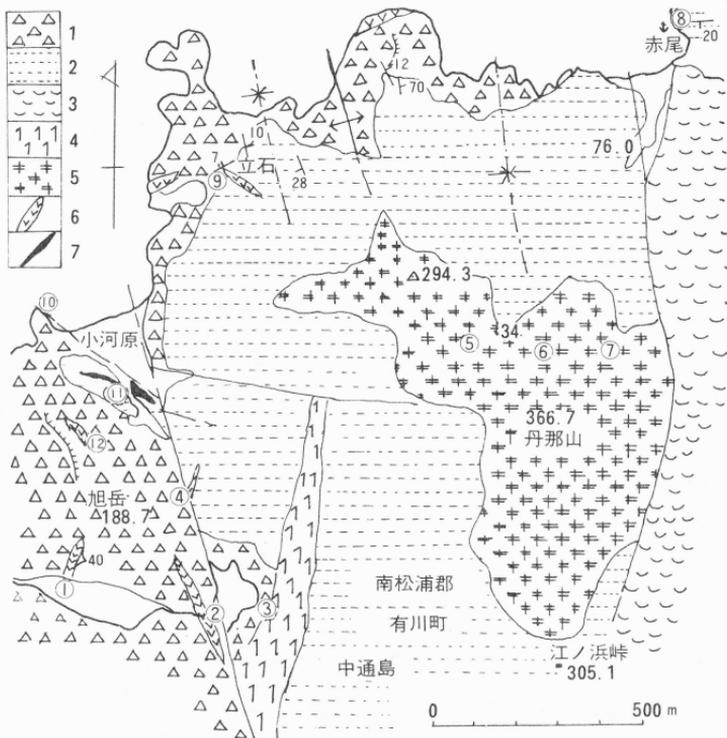
地 域	南松浦郡有川町有川—丹那山周辺
交 通	九州商船 佐世保—有川
地形図	有川 (1/50,000), 友住 (1/25,000)

中五島といっても極めて広いので、ここでは、比較的多くの岩種が見られる有川町の有川から丹那山のコースをのべ、あわせて周辺の興味ある地点についてのべよう。

有川から桜ヶ岳と旭岳の間の沢にそって東に進む。①の点で、中通島層を切る複輝石安山岩の岩脈が見られる。これはⅣd型である。さらに東に進むと道の別れる所の橋の川床の②にも、また中通島層A層を切る輝石ひん岩の岩脈がある。この岩脈は急冷周縁層も見られ、N30°Wに走っている。さらに東に進むと、③点で中通島A層およびB層に貫入した変質石英斑岩を見る。これはほぼN10°E方向に走っており、小河原からN10°W方向の断層に切られるらしい。

流紋岩を見て今来た道を引き返し、さきほどの②点から小河原(北方)に行く。道は前述の断層にそっているらしく、④では東側は中通島B層で、西側はA層である。A層はソーダ流紋岩質の火山角れき岩、円れき岩、凝灰岩よりなり、一部に泥岩、炭質物、石英斑岩などを含み炭酸塩化作用、緑泥石化作用が著しい。またB層は、砂岩・泥岩の互層で、一部に石炭層をはさんでいる。また、一部にB層を切る安山岩質岩脈が見られる。

小河原から丹那山に向かって東方に登る。前述のB層を見ながら294.3mの三角点の西側の峠に出る。すでに丹那山のノーライト貫入岩体の中に入っている。⑤～⑥～⑦にかけて各種の岩体を見ることが出来る。これらは複輝石角せん石はんれい岩、粗粒複輝石はん



有川町丹那山周辺地質図

1. A層 2. B層 3. C層 4. 流紋岩～石英斑岩 5. ノーライト
6. ひん岩・安山岩岩脈 7. 玄武岩岩脈

れい岩（ノーライト）、角せん石普通輝石せん緑岩、角せん石石英モンズナイト、角せん石グラノファイヤーなどの複合岩体であることがよくわかる。

丹那山のノーライト岩体からひといきに赤尾に降りると、赤尾⑧では見事なB層のクロス・ラミナ（斜交葉理）が見られる。赤尾から西方に向かって海岸ぞいに黒崎峠を越えて立石の⑨につく。⑨ではB層を貫ぬく珪質安山岩岩脈が見られ、N55°Wの方向である。B層とA層を見ながら小河原に着く。小河原の西方海岸⑩でA層をゆっくり

観察しよう。

小河原から南に向かい、⑪点で玄武岩岩脈がB層を貫ぬくのが見られる。これはピジョン輝石を含む玄武岩である。それから旭岳の北方を通る峠道に行く。⑫点では、B層の中の石炭の薄層を見ることができる。あとは峠を越えてA層を見ながら有川に急ごう。

以上の他に興味ある点をのべておこう。

有川からバスで鯛ノ浦まで行く。鯛ノ浦から大瀬戸に行くコースでは、石英安山岩質溶結凝灰岩、グリーンタフ、流紋岩と順次に累重しているのが見られる。溶結凝灰岩中には炭質物が伸ばされているのも見られ、またガラス質レンズが脱ガラス化作用を受けて緑泥石化しているのが見られる。また流理の発達した流紋岩溶岩と岩脈が見られる。

また、もし船をチャーターすることができるなら、鯛ノ浦湾の東出口の藤崎および中崎を見学したいものである。ここには古期に属する（おそらく中生代）石英斑岩があり、これを不整合に被覆した中通島層の発達を見る。

（松本徑夫）



若 松 瀬 戸